特別講演

演 題

初年次におけるアクティブ・ラーニングの展開
ー九州大学基幹教育カリキュラムを事例にー

講 師：九州大学基幹教育院教育企画開発部　准教授

田中　岳先生

（たなか がく）

〔講師紹介〕

1967（昭和 42）年生まれ。大学卒業後、会社勤務等を経て、1994 年 4 月～2008 年 3 月まで京都精華大学職員。2004 年度より名古屋大学大学院教育発達科学研究科において高等教育マネジメントを専攻し、2008 年 4 月、九州大学教育改革企画支援室准教授に着任。2012 年 10 月 1 日より現職。2014 度から新たにスタートした初年次カリキュラムの開発を担う。Q-Links（九州地域大学教育改善 FD・SD ネットワーク）事務局を兼務し、九州・沖縄地域における大学教育改善担当者のネットワークづくりを推進する。

【講演要旨】

アクティブ・ラーニングは、大学（学士課程）教育を質的転換する切り札となり得るのだろうか。2012（平成 24）年 8 月に中央教育審議会がとりまとめた、いわゆる“質的転換答申”には、その必要性が記述されている。残念なことに、その意義は語られてはいるものの、実際どのように行うのかについては、大学の各現場へ委ねられた表現になっていることは否めない。

おそらく本答申を受けて現場で起きることは、ディスカッションやディベート等を取り入れた双方向の授業科目を増やすことであろう。アクティブ・ラーニング実施状況の体裁が整い、実際の授業実践が必ずしも豊かになるとは限らない循環のはじまりといえるかもしれない。

本講演では、アクティブ・ラーニングと呼ばれる授業方略をどうやって展開すれば良いのかについて、具体策を提起する。ディスカッションやディベート等を更に効果あるものとする工夫について考えてみたい。

また事例として、九州大学の初年次学生を対象に今年度から開始した基幹教育カリキュラムのうち、「課題協学科目」「基幹教育セミナー」といったアクティブ・ラーニングに力点を置く授業科目の紹介も行う。